

野菜花き 7月上旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 7月4日、7日、8日、9日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地）は、着果中であった。6月下旬に引き続きCMVの感染株がみられた。防除によりアブラムシ類の寄生はみられなかったが、アザミウマ類の寄生が多かった。また、オオタバコガの被害果もわずかであるが確認された。

長野市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。オンシツコナジラミの発生が多く、寄生株率が92%と高かった。病害の発生はみられなかった。

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。うどんこ病の発生がみられたが、少発生であった（図1）。アザミウマ類の寄生がみられ、寄生株率が平年と比べやや高かった。また、オンシツコナジラミ、ハダニ類の寄生もわずかにみられた。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。6月下旬に引き続きアザミウマ類の寄生株率が高かった。病害の発生はみられなかった。



図1 キュウリうどんこ病（長野市）

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、着果期であった。アザミウマ類の寄生花率は6月下旬調査時よりやや高くなったが、少発生であった。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。チョウ目害虫の被害がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。ウワバ類等チョウ目害虫による被害株が多かった。病害の発生はみられなかった。

軽井沢町の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、株腐病の発生がわずかにみられた。虫害では、ウワバ類等チョウ目害虫による被害株が多かった。

長野市の巡回ほ場は、結球期であった。病害では、2品種のうちの1品種で、黒斑細菌病の発生がみられた。また、黒腐病の発生もわずかにみられた。虫害では、ウワバ類の寄生が多く、調査株全株でチョウ目害虫の被害がみられた。

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。チョウ目害虫の被害株率が高かった。病害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、黒腐病の発生がみられ、発病株率は低かったが、平年と比べるとやや高かった。虫害では、チョウ目害虫の被害株がみられたが、少発生であった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、定植前であった。

小諸市の巡回ほ場は、作付けがなかった。

小海町の巡回ほ場は、生育期（5～6葉）であった。病虫害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。チョウ目害虫の被害株率が平年と比べやや高かった。病害の発生はみられなかった。

7 レタス

上田市の巡回ほ場は、収穫期であった。病虫害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がみられ、平年と比べ発病株率はやや高かった。害虫の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。すそ枯病の発生がみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。また、斑点細菌病の発生もみられたが、平年並の発病株率であった。害虫の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、生育期（6葉期）であった。病虫害の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎期であった。アザミウマ類の寄生株率が100%と高かった。病害の発生はみられなかった。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べ高かった（図2）。虫害では、アザミウマ類、ハダニの寄生がみられたが、寄生株率は平年並であった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎中であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。虫害では、アザミウマ類の寄生株率が100%と高かった。

9 ながいも

長野市のながいもは、萌芽前であった。

10 ばれいしょ

小諸市の巡回ほ場は、生育中であった。疫病の発生はみられなかった。また、アブラムシ類は、防除により、寄生はみられなかった。

11 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、着蕾期であった。病害虫の発生はみられなかった。



図2 アスパラガス茎枯病（小布施町）

【中南信】 巡回日 7月3日、4日、7日、8日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫が終了していた。

伊那市および安曇野市の巡回ほ場（露地栽培）は、着果中であった。伊那市の巡回ほ場ではアブラムシ類、安曇野市の巡回ほ場ではアザミウマ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。

2 きゅうり

松本市の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫が終了していた。

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。花にわずかにアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたが、葉や果実への被害は抑えられていた。

3 すいか

飯島町の巡回ほ場は、着果中（トンネル被覆）であった。病害虫の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場は、収穫前であった。病害虫の発生はみられなかった。

4 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、結球始期であった（前回から場所移動）。葉にウワバ類（少発生）の寄生がみられた。

朝日村の巡回ほ場は、結球期であった。葉にウワバ類（少発生）の寄生がみられたほか、軟腐病による株の枯死（少発生）がわずかにみられた（図3）。

茅野市の巡回ほ場は、結球期であった。病害虫の発生はみられなかった。

5 ブロッコリー

伊那市の巡回ほ場は、収穫が終了していた。

6 はくさい

朝日村の巡回ほ場は、収穫が終了していた。

木祖村の巡回ほ場は、収穫期であった（前回から場所移動）。病害虫の発生はみられなかった。

7 レタス

塩尻市の巡回ほ場は、結球期であった。外葉にすそ枯病（中発生）の発生がみられたほか、軟腐病による株の枯死（少発生）もわずかにみられた（図3）。

朝日村の巡回ほ場は、結球始期であった。病害虫の発生はみられなかった。



図3 キャベツ軟腐病（朝日村）

8 セルリー

松本市の巡回ほ場（施設栽培）は、作付け前であった。

原村の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫前であった（前回から場所移動）。病害虫の発生はみられなかった。

9 アスパラガス

豊丘村（雨除け栽培）の巡回ほ場は、茎葉繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類（少発生）およびアブラムシ類（中発生）の寄生がみられた。

飯島町（雨除け栽培）の巡回ほ場は、立茎中であった。払落しによりアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、茎枯病（少発生）の発生もわずかにみられた。

池田町（露地栽培）の巡回ほ場は、立茎中であった。払落しによりアザミウマ類およびアブラムシ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。

10 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉 6.0 葉であった。虫害では、アザミウマ類およびネギハモグリバエ（いずれも中発生）の寄生がみられたほか、ネギコガ（中発生）の寄生が前回より増加していた。病害では、黒斑病およびさび病（いずれも中発生）の発生がみられた（図4）。

山形村の巡回ほ場は、本葉 5.0~5.5 葉であった。アザミウマ類（多発生）、ネギハモグリバエ（中発生）およびネギコガ（少発生）の寄生がみられた。病害では、黒斑病（少発生）の発生がみられた。

11 きく

富士見町の巡回ほ場は、頭決め前（草丈約 105cm）であった。病害虫の発生はみられなかった。



図4 ネギさび病（南箕輪村）